

いのちとくらしをまもる  
防災減災

令和3年3月30日  
11時00分 資料配布  
近畿地方整備局河川部  
大阪府住宅まちづくり部

よどがわおおせきこうもん  
淀川大堰閘門の整備に令和3年度から新規着手します  
～淀川舟運の活性化により、防災力を向上、賑わいを創出～

淀川の航路は、淀川大堰によって分断され、行き来ができなくなっています。上下流を結ぶ閘門を設置することによって、淀川河口・大阪湾と淀川上流の間を船が行き来できるようになります。大阪・関西万博開催までの完了を目指し、近畿地方整備局が淀川大堰閘門の整備に令和3年度から新規着手します。

■ 淀川大堰閘門整備に伴う淀川舟運の拡張による効果

淀川大堰閘門を整備することで、地震などの災害時の復旧活動への活用や、河川工事の資材運搬を舟運を用いて実施することが可能になります。

また、淀川大堰閘門整備による舟運の拡張に伴い、淀川沿川の賑わい創出に寄与することで、淀川全体の広域連携によるまちづくりを国・大阪府・関係市町村等と促進していきます。

災害時

舟運を利用した復旧活動



阪神淡路大震災における舟運を活用した堤防復旧

淀川沿川の賑わい創出

舟運を利用した淀川沿川の魅力向上



河川工事

淀川の改修  
工事への活用



阪神なんば線淀川橋梁改築工事における舟運の活用

< 取扱い >

< 配布場所 >

近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、大阪府政記者クラブ

< 問合せ先 >

【淀川大堰閘門整備に関する事項】

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 河川計画課

課長 前羽利治、課長補佐 宮崎元紀 TEL 06-6942-1141 (代)

【淀川沿川の賑わい創出に関する事項】

大阪府 住宅まちづくり部 まちづくり戦略室 都市空間創造課

課長 進士肇、参事 畑中知子、主査 熊崎典夫 TEL 06-6210-9812 (直)

# 淀川舟運の歴史と現状

舟運 [しゅううん] とは、船を使って物資や人を輸送することです。昭和初期までの淀川の舟運は、大阪と京都を結ぶ人々の生活に欠かせない輸送の手段でした。

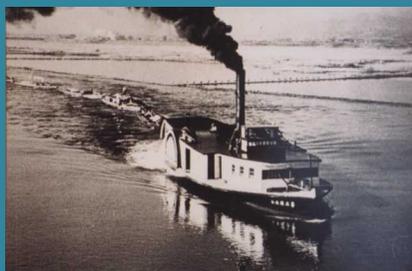
しかし、陸上交通の整備が昭和初期頃から広がったことにより、舟運は徐々に人々の暮らしから遠ざかりました。

阪神淡路大震災からの復興で舟運が活躍したことから、舟運の必要性が見直されました。また観光の役割も担う重要な手段としても認識され、大川の八軒家浜船着場と枚方緊急船着場を結ぶ定期運航が始まるなど、舟運復活の機運が高まっています。

舟運の全盛

舟運の衰退

舟運の復活



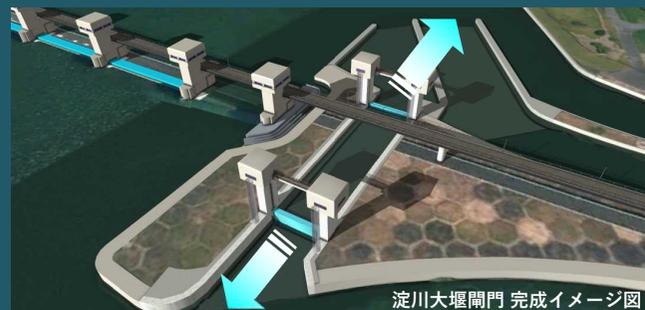
昭和初期まで淀川で運航していた外輪船



平成29年より定期運航されている観光船

# 淀川大堰閘門の整備に着手

淀川の航路は、大川と淀川に分派点に位置する淀川大堰によって分断され、行き来ができなくなっています。上下流を結ぶ閘門を設置することによって、淀川河口・大阪湾と淀川上流の間を船が行き来できるようになります。大阪・関西万博開催までの完了を目指し、淀川大堰閘門の整備を令和3年度から推進していきます。



淀川大堰閘門 完成イメージ図



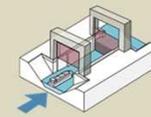
閘門設置前の淀川大堰周辺



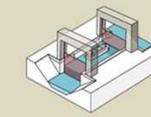
閘門設置後の淀川大堰周辺

## 閘門のしくみ

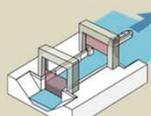
閘門は、水位差のある水面の間を結ぶ船のエレベーターの役割を果たします。



1 片方のゲートが開き、船が閘門に進入します。



2 ゲートを閉じ、閘門内と出口側の水位を揃えます



3 反対側のゲートを開き、船が出て行きます。

# 舟運に期待される役割

## 災害時

舟運を利用した復旧活動



阪神淡路大震災における舟運を活用した堤防復旧

阪神淡路大震災の際には、被災した淀川堤防の復旧に舟運が活用されました。災害時には陸上交通が麻痺することが想定されるため、舟運の活躍が期待されます。

## 河川工事

淀川の改修工事への活用



阪神なんば線淀川橋梁架け替え工事における舟運の活用

舟運は、堤防や橋梁などの河川工事に使用する土砂や資機材、浚渫された土砂の運搬に活用されています。今後は、高規格堤防などの河川工事資材の運搬経路としての活用が期待されます。

## 観光

船で京都へ、万博へ



上流 [背割堤の桜と花見船] と下流 [万博会場・夢洲] の観光資源

淀川大堰閘門が完成することによって、京都から大阪までの航路がつながることになります。2025年大阪・関西万博の会場である夢洲までの航路としての期待も高まります。

# 淀川舟運のこれから

淀川沿川には、多くの魅力ある観光資源が存在しています。また、2025年には大阪・関西万博が開催され、国内外からより多くの観光客が大阪・京都に訪れることが予想されます。淀川上下流の舟運分断の解消により防災対策、賑わいづくりを関係機関と連携して推進することで、魅力ある淀川となるよう努めています。



大阪・関西万博 [大阪市]



※現在、整備中

# 淀川舟運を活かした賑わいづくり

淀川から夢洲など、新たな舟運航路により、沿川のにぎわいの創出や魅力向上が図られ、淀川全体の広域連携によるまちづくりを促進

